

会議名 ニセコ町学校運営協議会推進委員会（平成27年度・第2回）

開催日 平成27年11月6日	会議時間	開会 午後 1時30分 閉会 午後 3時40分
会議場所 ニセコ町役場 第2庁舎 大会議室	記録者 ニセコ中学校事務職員 三坂 宜巳	
出席委員：渡邊委員、萬谷委員、山野委員、矢島委員、新井委員、小中委員、田邊委員、 日野浦委員、菊地委員、加藤委員 教委：淵野係長、深澤主事、三坂		

会議内容

1. 開会

2. 教育長あいさつ

大分県玖珠町・福島県大玉村の視察では、どちらの地域もあたたかく迎えてくれた。そういう気持ちから、地域全体で子どもたちを育てようという意識を感じた。学校からも、地域の方たちに協力してもらいながら子どもたちを成長させていきたいという気持ちを感じ、それがコミュニティ・スクール（以下、CS）につながっているのではないかと。視察でのエキスを、ニセコのCSの仕組みづくりに役立てていきたい。

3. 委員長あいさつ

先日出席した自治創生の会議において、人づくりをどうするのかという問題があげられた。人づくりに関しては保護者の関心も高く、教育をどう進めていくかという意見が多く出ていた。こうした課題はCSの導入によってほぼ解決できるのではないかと。現在、たくさんの地域の方に入っているただき学校運営を進めることができている。このようなことをCSで一貫し、系統的に行えば、すばらしい制度になると思う。

先進地の良いところを学び、課題を確認し、みなさんで話し合っていきたい。

4. 議事

(1) 経過報告

本年度の経過を資料により報告し確認した。

(2) 先進値視察研修報告

①大分県玖珠町教育委員会・県立玖珠美山高校（発表：淵野係長）

資料により視察内容について報告（概要）

○小学校5校・中学校4校でCS導入済。未導入校は地域とのつながりが強い小規模校。導入等促進事業を活用している間にCSを導入している。各学校からの推薦で委員を配置（12～15名程度）。委員に地域コミュニティ組織から必ず入っている。会議開催数は10回程度、時間帯は夕方～夜の開催。

○導入の成果として、地域全体で子どもを守り育てようという気運が生まれ、地域が協力的になった。特に、CSとコミュニティ運営協議会が連携して活動する事で、地域の活性化と人材育成が町の活性化につながっている。

○学校支援活動への参加者の固定化防止や活動の広がりを目指し、CSの下に目標達成会議を設置している。

○玖珠美山高校では、地域の人材やアイデアを教育活動に活かし、学校の魅力向上を図るため、CS導入を進めている。

○CSのスタートは、良いことも悪いこともみんなで共有し話し合う事が大切。

○CSは「制度を導入したら終わり」ではなく、導入がスタートである。目標達成会議のように常に課題やその解決方法などを考えて行く必要がある。

②福島県大玉村教育委員会・大玉村立玉井幼稚園・玉井小学校（発表：三坂）

資料により視察内容について報告（概要）

○学校支援地域本部の立ち上げを皮切りにCS推進事業を受けた。教育ビジョンの策定には1年余りの時間をかけ、平成23年からCSがスタートした。

○2幼稚園＋2小学校＋1中学校の5校で「おおたま学園」を構成し、学園のCSを設置。会議開催数は年9回、時間は18時45分からの2時間程度。

○CSにはコーディネーターを配置（学校支援地域本部も兼務。村の非常勤職員）。事務的な仕事のほかに、ボランティア養成や派遣の調整、PTAへの説明、教育フォーラムの開催などを担当している。

○導入前は地域に学校に対する依存体質があったが、導入後の成果として、保護者・地域住民の教育への関心が高まった。幼小中それぞれ異校種への理解が深まり、村全体での教育が推進できるようになった。学校支援ボランティアのシステムが定着し、CS委員自らの動きがでてきている。

○課題はCSをいかに自主的に運営できるようにしていくか、人材の若返りや入れ替えをどう行っていくかという点。

○ニセコ町のCS導入に向けてたポイント＝「広報活動の充実（地域や保護者の理解を深める）」「人材発掘を進め、豊富な人材と繋がり、協力を得られるようにしていくこと」「ニセコ町で育てていきたい子ども像の共有をしていくこと」

③意見交換（主なもの）

【CSの設置】

- ・CSを目標に向かって何かに取り組む場とするのか、意思決定の場とするのか検討が必要だ
- ・CSを学校と地域をつなぐ仕掛けにするべき。CSを学校のブレーンに
- ・学校ごとに設置の場合は、それぞれの特徴を活かして主体的な取り組みができる反面、温度差が生じることがあるのではないかと。統一して設置の場合は、町全体の状況を委員が共有することができるようになる

【指導主事・コーディネーター・ディレクター】

- ・指導主事のように学校の体制を理解している人が入る必要がある
- ・大玉村のコーディネーターのように、教育長や教職員が代わっても長く携わり、核となる人材が必要
- ・ディレクターは地域の実情、学校の実情を知っている方でなければならない

【学校支援】

- ・ニセコ町でも人材派遣の人材バンクのようなものがあれば便利だ
- ・大玉村ではCS委員会と学校支援地域本部の役割分担が上手く考えられていた。CS委員会は頭脳で議論する場。学校支援本部が実際に活動する場になっている

【その他】

- ・CSの事例をもっと知りたい。その中からニセコに活かせることがでてくるのではないかと
- ・大玉村では1年間かけて教育ビジョンを作っていた。地域がどういった子どもに育てたいか、育てていく子どもたちのイメージを教育関係者や地域の人々が話し合い、煮詰めていく必要がある

(3) 次回開催予定について

12月上旬開催予定。

5. 閉会